

新基本構想への追加意見一覧

| 意見区分 | 概要 |
|------------|--|
| 部会報告に対する意見 | <p>①全体を通して現時点の課題に対しての改善提案が多く、10年後の杉並区の姿が見えてこない。今後10年はさらに変化が大きくなるため考える基盤・方向性の前提を議論する必要がある。</p> <p>②世界的に環境問題、電気自動車、IT関連等で2030年に向かっの議論が進んでいる。特に電気自動車の普及・環境問題対応のための社会インフラの変化は区の10年後の姿を検討する上で重要となる。この部分の議論が抜けている。杉並区としてどのような方向性で対応していくかでも骨格には必要と思う。</p> <p>③「稼ぐ」の本質は区の資産を有効にお金に換えることだと思う。この考え方には賛成。「区資産の民間活用」等幅広いアイデアが出るようなポジティブ表現が必要と思う。</p> |
| | <p>危機管理：（基本的な取り組みの方向性） 「被災したことで区民が区を離れることがないように、…」を 「被災したことで区民が区を離れる必要がないように、…」とするほうがよい。区民が区を離れるのは各自の自由である。</p> |
| | <p>・まちづくりについて 審議会で意見があったとおり、駅前空間を拠点とした賑わいづくりは全体に効果を波及させるのは不十分。そもそもまちづくりというと賑わい創出がセットで言われることが多いが、良質なみどりを大切にする住宅地で意図的に（しかも行政主体で）賑わいを作り出す必要があるのかと思う。</p> |
| | <p>・「住まい」について 環境性能を高める空家といった視点も大事だが、住環境も人権の一つであるという視点を持ち、基準を設けるなどして劣悪な住環境にある人のサポートを行うことは大事ではないか。住宅都市として、質の高い生活を提供できる区になると良いと思う。</p> |
| | <p>環境（C欄：具体的な手段・方法、取組など） ・生物多様性の保全には「外来種」の適正な駆除が重要である。害虫獣には外来種・在来種両方が存在し、生態学的な正しい理解に基づく管理を行う必要があるため、基本構想や提言書に記載する際の用語には注意して頂きたい。</p> |
| | <p>福祉：（基本的な取り組みの方向性） 「障害のある人や支援の必要な人を一か所に集めるという支援方法でなく、…」を 「障害のある人や支援の必要な人を一か所に集めるという支援方法にこだわらず、…」とするのが望ましい。場合によっては一か所に集まった方がよい場合も考えられる。</p> |
| | <p>・「子ども」について 検討分野は子どもということだが、「子育て」にフォーカスしすぎている感がある。子どもは社会が育てるものであると同時に、一人の人間である。子供の人権問題に真摯に取り組むセーフティネット構築などを掲げても良いのではないか。</p> |
| | <p>・区の経済的体力を活かした「学び直し」支援制度の拡充 資格の取得補助や高卒認定講座など、地方の市町村で取り組みが広がっているが自治体の経済力の不足によりなかなか実現しないというニュースを見た。高齢者が多く、様々なエリアから交通アクセスの良い杉並区で、子供から高齢者まで好きなことを学べる場を充実させる取り組みをするのは良いのではないか。特に、コロナで産業構造が急速に変化しているから、失業者を中心に時代の変化に即したスキルを身に着ける場を区として設け、アピールポイントにできないか。</p> |
| | <p>・「稼げる」区政について 言葉のイメージはともかく、持続可能で健全な財政基盤の構築というスタンスは重要だと思う。審議会で意見が出たとおり、区の財政はビジョンではなく方法論として分けて扱われるべきと感じた。</p> |
| | <p>・ICT技術の導入について 杉並区の歴史文化遺産や区の歴史等、文化的リソースを公開して誰でもアクセスできるような知識的プラットフォームがあると良いという意見に同意。また、それだけでなく手続き文書や計画文書等、すべてのデータを日本語と英語でインターネット上に公開すると良いと思う（一部地理データ/統計情報は有料とかでも良いのでは）。</p> |

| 意見区分 | 概要 |
|--------------|--|
| 部会報告に対する意見 | <p>ICT、コミュニティ（C欄：基本的な取組の方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化や区のサービス向上（区役所の取組み）の他に、コミュニティ、学び、協働など、区民によるICTの活用促進を図る必要がある。特に新型コロナで急速に拡大したオンラインツールは、場所や人数の垣根がないという特徴がある。このメリットを活かし、地域や世代を問わず幅広くつながりをつくるツールとして活用促進してほしい。 ・逆に、地域内・区内でのつながりを強化するためには、参集・対面の機会も奪ってはいけない。参集とオンラインそれぞれのメリットを生かしたコミュニティ形成を進める方向性であってほしい。 ・「若者が地域活動（町会など）に参加する仕組みづくり」との記載があるが、「すぎなみちよこっとーク」では、多世代交流のニーズが高いことはわかったが、町会への参加という意見はなかった。若者どうしの交流の場づくりや、地域活動で若者が活躍・発信できるような配慮が必要ではないか。 <p>各部会の発表で、アプローチ方法が異なる重なる施策（IoT部分他）や取り組み、連携できる部分など多々ありましたので、今後この辺りの重なりを合わせていく作業と確認をしていただきたいと思います。</p> <p>また、それぞれの施策考え方の根本がSDGsの観点では何番の目標とターゲットに合うのか？などを明確にできれば良いと思います。</p> <p>部会報告の時間が短く、質疑応答の時間も限られていたので、その部会に参加をしていなかった委員が他の部会に関する理解を深めるには不十分と感じた。今回の意見提出で出てきたご意見を各委員にフィードバックしてほしい。</p> |
| 基本構想の骨格案への意見 | <p>①骨格案に出てくる「～のまち」表現に違和感がある。</p> <p>昔は駅と商店街を中心とした町があり、その中に学校・公民館・神社等の施設があって生活の場が「まち」として地域が限定できた。最近は商店街も住宅化し「まち」という認識ができないところが多い。</p> <p>今後の地域・コミュニティを考える上で杉並区全体としての意識を持つ必要がある。このため画一的に「～のまち」表現はやめ、項目ごとに対象や方向性を明確にした表現にした方が良いのではないかと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一部会に属し、まちづくりの（基本的な取組の方向性）には、「低炭素の環境問題やSDGsへの貢献ができるまちづくりを進める。」が盛り込まれたが、（目指すべきまちの姿）では低炭素のまちづくりが入らず、納得できない。他の部会の審議を逐一把握できずにいたが、第二部会の環境の審議概要を確認しても、（設定した考え方）には環境施策と都市計画は密接につながっているものである、としながらも（目指すべきまちの姿）の文言には的を得た文言がなく、今後杉並区で低炭素のまちづくりや省エネ建築物推進が進んでいかないと危惧している。 ・2030年までの10年間は地球温暖化対策がまちづくりの最重要課題になると考えており、区民に認識が広がり民間を含めて取り組みを加速させていくという意味からも、分かりやすく項目建てをしていくよう要望する。 ・この他にも、部会をまたがる分野に関しては、理解を深めるためにより一層の委員参加型による意見交換が必要と感じている。 <p>「みどり」と「環境」の二つがあるのがわかりにくい。</p> <p>「環境」は広く深い概念で、「みどり」を含む。</p> <p>また、18日の会議を含め、初会合から「気候危機」への対応が必要という声が多かった。気候危機は、挑戦的な課題でもある。現在の縦割りの意識や問題の立て方、枠組みを超えた取り組みが必要だからだ。</p> <p>また、通常、気候危機というと、脱炭素➡再生可能エネルギーの導入拡大と連想してしまうが、自然生態系および生物多様性の保全を忘れてはならない。炭素を吸収する健全な自然環境（海、森、土）を破壊することによる温室効果ガスの排出増加について、近年明らかになってきた。</p> <p>こうした認識のもと、気候危機に取り組むという姿勢を示すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性を「受け入れる」「認める」という表現に違和感。多様性はあるのが当たり前で、さらに大切に思うものだと思う。 ・郷土愛は結果として生まれるものであって、目的ではない。 |